

宮里老人クラブ新聞 みやわし

第21号

会長：前門 政子
題字：喜屋武磯江
編集：山下 博實

グラウンドゴルフで笑顔

～みやわし会、火曜日の新たな楽しみ～

みやわし会の定期総会で、宮里公園ではゲートボールに加えて、毎週火曜日にグラウンドゴルフを楽しむことになりました。



上江洲安輝さん
ナイスショット！

梅雨が明けた宮里の空には、真つ白な雲が沸き立ち、灼熱の太陽がまぶしく輝いています。そんな中、火曜日の朝には、謝花哲夫さん、安里清子さん、玉城吉達さん、登美子さんご

夫妻など、多彩な顔ぶれが公園に集まって来ました。まずはラジオ体操で体をほぐします。

当日の朝は、グラウンドのまわりを伸びた雑草を、東江信雄さんと上江洲安輝さんが動

き、多様な顔ぶれが公園に集まって来ました。まずはラジオ体操で体をほぐします。

力草刈機で丁寧に刈りそろえていました。



「いい運動よ」と安里清子さん

どなあ」と笑って話していました。2ゲームのあいだには、しっかりと水分補給の時間を取り、熱中症対策に心がけています。

るといへ、夏の日差しは容赦がありません。体調に気をつけな



ゆんたくを楽しむ【宮里公園の東屋】

がら、これからも毎週火曜日のさわやかなひとときを、無理なく楽しく続けていきたいものです。



左から仲本洋子さん、玉城登美子さん、塩川初江さん

6月12日(木)、かりゆし園にて県老人クラブ連合会主催の囲碁大会が開催されました。

具志堅さん、囲碁大会で健闘

ました。相手の手を読み合う真剣な表情と、落ち着いた対局姿勢が印象的でした。今後のさらなる活躍が期待されます。



松田竹子さん
ラジオ体操で準備運動もしっかりと



役員会だより

役員会開催：6月25日(水) 公民館2Fホール
議長：前門政子会長 出席：役員7名
議題

7月の予定

定例会：毎(水)10:00～公民館2階

(役員会報告、踊り、各種ゲームを楽しみます)

- ・7/03 百歳体操と定例会
- ・7/10 百歳体操と定例会
- ・7/17 百歳体操と定例会(手芸の集い)
- ・7/23 百歳体操と定例会
- ・7/30 百歳体操と定例会

役員会：7/16(水)10:00～ 公民館2階

宮里公園：

- ・毎週(火)10:00～グラウンドゴルフとゆんたく
- ・毎週(月)(水)(金)(土)9:00～ゲートボールとゆんたく

慰霊の日 祈りとともに



静けさと想いが響いた、みやわし会のひととき



「おばあちゃんの歌」を読む喜屋武磯江さん（左）と、集いを企画した新屋千代子さん（右）

六月の青空の下で迎える「慰霊の日」。太平洋戦争末期、凄惨を極めた地上戦の舞台となった沖縄では、砲弾の雨が降り注ぎ、住民の四人に一人が命を落としたといわれます。その深い悲しみを

決して風化させぬよう、みやわし会では毎年この時期、静かな祈りを捧げる集いを行っています。今年は6月19日（木）の定例会で、新屋千代子さんが心を込めて企画をしまし

た。まず紹介されたのは、慰霊の日に子ども代表として平和の詩を朗読した、伊良波小学校6年・城間一歩輝さんによる「おばあちゃんの歌」。この詩を、喜屋武磯江さんがゆつくりと心を込めて朗読しました。

「幸せなら手をたたこう」のリズムで会場に広がる笑顔と拍手



「戦争華」の島袋安子さん（左）と仲宗根創さん（右）

華（いくさばな）というyoutubeからの映像作品。読谷村の島袋安子さん（91

歳）が、戦争で亡くした父と二人の兄への想い、そして平和への願いを琉歌に綴ったものです。その詩に民謡歌手・仲宗根創さんが曲をつけました。深く静かな歌が会場に響いていました。

紹介されたとき。この歌が、実はフィリピンを訪れた作家・木村利人さんの戦争体験から生まれたという話に、皆さんが驚かされました。戦争への悔恨と、平和への願いが、あの明るく楽しいメロディに込められていたのです。

場の方囲気がやわらいだのは、「幸せなら手をたたこう」の誕生秘話が

運天先利さんは三線を手に「屋嘉節」を静かに歌いました。捕虜収容所であつた屋嘉の地で生まれたとされるこの歌。上江洲安輝さん、運天順子さんたちも静かに声を重ねて、鎮魂の歌がより重みを重ねるように響いていました。



運天先利さん 三線に込めた祈り

私たちの親の世代は、あの苦しく厳しい時代を、幼い子どもたち、弟妹たちを抱えながらも必死に生き抜いてきました。とても戦争の体験を語る余裕などなかったことで、静かな余生のなかで、その記憶がぼつりぼつりと語られはじめ、ときとなり私たちの世代は、あの苦しい時代が、真つ直ぐに耳を傾け、感じとつていくこと。そして、私たちの世代が、その橋渡し役となること——それが、平和を未来へとつなげる、大切な責務なのだと思ひ感じさせられるひとときとなりました。



「屋嘉節」に耳を澄ませながら、それぞれの想いに浸る・・・